

町家ペンキ塗り替えボランティア活動 2000年 in HAKODATE

■ 2000年9月2日（土）、3日（日） ■

←左

（17）手塚家住宅：1935(昭和10)年、元町29-15

【塗り替えの配色】外壁下見板：淡い緑色、窓枠・柱・網蛇腹等：濃緑色、軒持ち送り・飾りパネル・小庇の垂木小口等：白色の3色

→右

（18）小池田家所有建物：1934(昭和9)年、元町28-14

【塗り替えの配色】外壁下見板：クリーム色、窓枠・柱・蛇腹等：茶色、軒持ち送り・飾りパネル：白色の3色

●塗り替え対象物件の選定理由：今年度からの新たな試みとして、ペンキ塗り替え対象建物の公募をおこなった。ちらしの作成、新聞社などのマスコミを通じての公募によって、函館市内全域から8件の応募があった。このうち、①西部地区に立地している、②下見板張りの建物である、③同じ通り沿いで近接している、ことを優先基準として、元町29番の手塚家住宅と元町28番の小池田家所有建物の2件を選んだ。

●塗り替える色の方針：手塚家住宅では、従前の淡い緑色系が西部地区の特徴的な色であることから、それを外壁に踏襲し、窓枠・柱・網蛇腹等を濃い緑色としてメリハリをつけ、さらに軒持ち送り・飾りパネル・小庇の垂木小口等を白色のアクセントカラーとして装飾性を強調した。小池田家所有建物では、従前のクリーム色系が周辺の町並みに調和している色であったので、これもそのまま外壁に踏襲し、窓枠・柱・蛇腹等を茶色に塗り分けてメリハリをつけ、さらに、軒持ち送り・飾りパネルを手塚家住宅と同じ白色として関係性を高めた。今回は2件とも従前の配色を尊重し、それにもう1色アクセントカラーを付け加える、という方針で色を選んだ。

【参加者】ペンキ塗り替えボランティア代表・山下義行、丸 雅典、田中 宏、野瀬祥生（以上北海道大学大学院工学研究科建築計画学分野・修士課程1年）、菅 肇、田中敬子、野瀬 恵（以上北海道大学大学院工学研究科建築計画学分野・修士課程2年）、植松 龍治、西山健一（以上北海道大学工学部建築都市学科建築計画学分野・4年）、高木 浩一（北海道大学大学院工学研究科建築計画学分野・修士課程1年）、森下 誠（北海道大学大学院工学研究科建築計画学分野・助手）、ミヤタさん（函館工業高等専門学校・学生）、藤澤雅吉（函館工業高等専門学校・教授）、米も 也、吉田 岳夫（以上北海道大学建築計画学分野OB）、大見佳明（北海道大学工学部・学生）、伊藤市郎（北海道大学文学部・学生）、太田誠一（元町倶楽部）、陳 有崎（函館からトラスト事務局）、中村幸子（小倉工務店）、馬場洋輔（NHK函館放送局）、伊藤くんの彼女、山口 正喜、大槻幸子、白取和美・大越くん・賀太（以上一般参加）、以上27名

【協力者】手塚、小池田（以上建物所有者・居住者）、藤澤雅吉（函館高等学生のボランティア手配・女子学生の宿泊受け入れ）、西小倉工務店（足場の手配）、日本ペイント販売北海道・東北支店（ペンキ塗料の手配）、関有崎・河内昌子（足場の交渉、ハケ等ペンキ用具の保管、軽トラック）、太田誠一（対象建物所有者の承諾、所有者との色の相談・決定、男子学生の宿泊受け入れ）

※以上敬称略



before



after



before



after

